

## XIV 哺乳類

### 1 調査のあらまし

豊田市内の哺乳類（綱）の生息状況を調査するために、豊田市内各地における分布の生息確認を行い、記録した。

### 2 調査方法

調査方法は主として実地調査（聞き取りを含む）と文献調査であり、主たる実地調査は2008年3月以降2014年10月までであるが、文献調査の資料には2004年9月以降のものが含まれている。

#### （1）文献調査

既存の文献を収集し、生息場所、確認時期等を調査した。

#### （2）標本調査

既存の標本に関する情報を収集し、生息場所、確認時期等を調査するとともに、必要に応じて未同定標本の同定を行った。

#### （3）現地調査

現地調査を行い、生息状況を調査するとともに、必要に応じて既知産地の現状についても調査した。捕獲に際しては愛知県からの鳥獣捕獲許可を得て行った。また、コウモリの生息調査においてダムの導水路内の調査を行った際には、管理者の中部電力からの許諾と案内をいただいた。小哺乳類の捕獲調査に際しては、愛知県知事より「許可証（鳥獣の捕獲等又は鳥類の卵の採取等）」の発行を受けた。

### 3 調査結果

#### (1) 概要

調査の結果、豊田市には以下の哺乳類の生息が確認された。確認された種の一覧は次のとおりである（\$は外来種）。

#### ●齧歯目（ネズミ目） RODENTIA

##### ◆ネズミ科 MURIDAE

1. ハタネズミ *Microtus montebelli* (Milne-Edwards, 1872)
2. スミスネズミ *Myodes smithii* (Thomas, 1905)
3. ヒメネズミ *Apodemus argenteus* (Temminck, 1844)
4. アカネズミ *Apodemus speciosus* (Temminck, 1844)
5. カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas, 1771)
6. ハツカネズミ *Mus musculus* Linnaeus, 1758
7. ドブネズミ *Rattus norvegicus* (Berkenhout, 1769)
8. クマネズミ *Rattus rattus* (Linnaeus, 1758)

##### ◆ヌートリア科 MYOCASTORIDAE

9. \$ヌートリア *Myocastor coypus* (Molina, 1782)

##### ◆リス科 SCIURIDAE

10. ニホンリス *Sciurus lis* Temminck, 1844
11. ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827)
12. モモンガ *Pteromys momonga* Temminck, 1844

##### ◆ヤマネ科 GLIRIDAE

13. ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)

#### ●ウサギ目 LAGOMORPHA

##### ◆ウサギ科 LEPORIDAE

14. ノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck, 1845

#### ●霊長目（サル目） PRIMATES

##### ◆オナガザル科 CERCOPITHECIDAE

15. ニホンザル *Macaca fuscata* (Blyth, 1875)

#### ●偶蹄目（ウシ目） ARTIODACTYLA

##### ◆ウシ科 BOVIDAE

16. カモシカ *Capricornis crispus* (Temminck, 1836)

##### ◆シカ科 CERVIDAE

17. ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1838

##### ◆イノシシ科 SUIDAE

18. イノシシ *Sus scrofa* Linnaeus, 1758

#### ●食肉目（ネコ目） CARNIVORA

##### ◆ネコ科 FELIDAE

19. \$ノネコ *Felis catus* Linnaeus, 1758

##### ◆ジャコウネコ科 VIVERRIDAE

20. ハクビシン *Paguma larvata* (C. E. H. Smith, 1827)
- ◆イヌ科 CANIDAE
21. §ノイヌ *Canis lupus familiaris* Linnaeus, 1758
22. タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834)
23. キツネ *Vulpes vulpes* (Linnaeus, 1758)
- ◆クマ科 URSIDAE
24. ツキノワグマ *Ursus thibetanus* G. [Baron] Cuvier, 1823
- ◆イタチ科 MUSTELIDAE
25. テン *Martes melampus* (Wagner, 1840)
26. アナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1844
27. ニホンイタチ *Mustela itatsi* Temminck, 1844
28. §シベリアイタチ *Mustela sibirica* Pallas, 1773
- ◆アライグマ科 PROCYONIDAE
29. §アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758)
- 翼手目 (コウモリ目) CHIROPTERA
- ◆キクガシラコウモリ科 RHINOLOPHIDAE
30. キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774)
31. コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835
- ◆ヒナコウモリ科 VESPERTILIONIDAE
32. ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas, 1911
33. アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (Temminck, 1838)
34. ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)
35. モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)
36. テングコウモリ *Murina hilgendorfi* (Peters, 1880)
- 食虫目 (モグラ目) SORICOMORPHA
- ◆モグラ科 TALPIDAE
37. ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck, 1841
38. ミズラモグラ *Eurosaptor mizura* (Günther, 1880)
39. アズマモグラ *Mogera imaizumii* (Kuroda, 1957)
40. コウベモグラ *Mogera wogura* (Temminck, 1842)
- ◆トガリネズミ科 SORICIDAE
41. ジネズミ *Crocidura dsinezumi* (Temminck, 1842)
42. カワネズミ *Chimarrogale platycephalus* (Temminck, 1842)

## (2) 各論

### ア 齧歯目 (ネズミ目) RODENTIA

#### (ア) ネズミ科 MURIDAE

##### a ハタネズミ *Microtus montebelli* (Milne-Edwards, 1872)

ハタネズミについては調査期間中の現地調査において、ワナによる捕獲も聞き込みによる分

布確認もできなかった。

文献調査では、野呂（2009）による2007年の調査で小原地区の樽俣町（標高160m）で1頭が捕獲されている。2009年の愛知県レッドリストでは準絶滅危惧（NT）に指定されており、豊田市では旧豊田市域、小原地区、稲武地区で記録がある（子安・織田，2009）。宮尾ほか（1984）は、愛知県内では当時においても「現在は個体数が極めて少なくなっているようで、なかなか採集されない」と述べている。小原地区での捕獲は小原田代町（原記載は小原村北）1980年1月のことである（宮尾ほか，1984）。宮尾ほか（1984）による旧豊田市域での記録は「豊田市史（1978）」と「松平町誌（1976）」によるもので、それぞれ旧豊田市と旧松平町での分布記録があることを記述している。

b スミスネズミ *Myodes smithii* (Thomas, 1905)

現地調査では、調査期間中の2010年5月と8月にワナによる採集調査で分布が確認された。それらはすべて稲武地区で、御所貝津町（2頭，2010年5月3日）、稲武町（面ノ木峠1頭，2010年8月1日）の2町で合計2メッシュでスミスネズミの生息が確認された。

文献調査では、2009年の愛知県レッドリストでは準絶滅危惧（NT）に指定されており、豊田市では旧豊田市域、小原地区、下山地区、旭地区、稲武地区で記録がある（子安・織田，2009）。



写真 XIV-1  
スミスネズミ♂ 御所貝津町  
2010年5月3日撮影 小鹿登美

c ヒメネズミ *Apodemus argenteus* (Temminck, 1844)

現地調査では、調査期間中の2009年7月～2013年8月にかけてワナによる採集調査等により、5地区（藤岡・小原・下山・旭・稲武）でヒメネズミの分布が確認された。

藤岡地区では、上川口町（2009年12月30日1頭）と下川口町（2010年12月30日1頭）の2町2メッシュで捕獲による生息確認がなされた。小原地区では、大ケ蔵連町（大ケ蔵連国有林：2009年7月20日1頭）の1町1メッシュで捕獲されたのみである。下山地区のワ



写真 XIV-2 ヒメネズミ♀ 久木町  
2011年5月22日撮影 岡田慶範

ナ調査では、東大林町（2013年8月13日3頭）、蕪木町（2011年3月19日1頭）の2町で合計2メッシュでの生息が確認された。旭地区では、一色町（田ノ久谷で5頭，2011年5月4日）、小渡町（3頭，2012年5月4日）、浅谷町（2頭，2011年5月5日）の3町で合計3メッシュでの生息が確認された。稲武地区では2010年7月31日の聞き取り調査で稲武町面ノ木峠でヒメネズミの親子を目撃したとの情報を得ているほか、稲武町（面ノ木峠2010年8月1日7頭，同年8月1日4頭）、御所貝津町（2010年5月2日13頭，同年5月3日17頭，同年7月11日3頭）、小田木町（2010年8月22日10頭）の3町3メッシュでヒメネズミが捕獲された。

d アカネズミ *Apodemus speciosus* (Temminck, 1844)

現地調査では、調査期間中の2010年5月～2013年8月にかけてワナによる採集調査等で7地区(保見・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武)でアカネズミの分布が確認された。

保見地区では、大清水町(原山のブドウ園で2012年11月4日)の1町1メッシュで複数個体の目撃情報が得られて分布が確認された。藤岡地区では、上川口町(小原地区と藤岡地区の境界周辺で2009年12月30日1頭)の1町1メッシュで捕獲による分布が確認された。小原地区では、永太郎町(2010年6月29日1頭)、千洗町(道慈小学校周辺で2009年5月3日1頭、同年5月4日2頭)、大ケ蔵連町(大ケ蔵連国有林で2009年5月3日1頭、同年5月4日2頭、同年7月20日2頭)、遊屋町(シモで2010年9月10日2頭、向垣内で2010年10月15日1頭)の4町4メッシュで捕獲による分布が確



写真 XIV-3 アカネズミ♀ 久木町  
2010年9月5日撮影 岡田慶範

認された。足助地区では、久木町(吉田で2010年9月5日3頭、同年11月13日1頭ただしロードキル、宮ノ洞で2010年10月4日1頭、同年10月15日1頭、同年10月28日1頭、同年10月29日2頭、同年12月14日1頭)、御内町(金沢段戸国有林で2009年8月14日1頭)の2町3メッシュで捕獲による分布が確認された。下山地区では、東大林町(三河高原牧場周辺で2013年8月13日2頭)の1町1メッシュで捕獲による分布が確認された。旭地区では、一色町(田ノ久谷で4頭、2011年5月4日)、小渡町(2011年5月4日2頭)、浅谷町(2011年5月5日2頭)の3町で合計3メッシュでの生息が確認された。稲武地区では、稲武町(面ノ木峠で2010年8月1日2頭、同年8月29日7頭)、御所貝津町(2010年5月2日4頭、同年5月3日2頭)、黒田町(タカドヤ湿地周辺で2009年9月20日4頭)、小田木町(2010年8月22日4頭)、大野瀬町(2012年8月17日2頭)の5町5メッシュで捕獲確認された。

文献調査では、野呂(2009)による2007年の調査で猿投地区の西広瀬町で5頭、石野地区の東広瀬町で8頭、小原地区の樽俣町(標高160m)で5頭、百月町で4頭、旭地区の小渡町で4頭が捕獲されている。また、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2014年の2月下旬～3月下旬に3件の記録がある(日本野鳥の会ほか、2014)。

e カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas, 1771)

現地調査では、調査期間以前からの情報も含めて2007年12月～2014年7月にかけて球巣の視認による確認や生体の目撃等により2地区(高橋・足助)でカヤネズミの分布が確認された。

高橋地区では、琴平町(2007年12月1日)において、生体の目撃と写真撮影がなされているほか、矢並町(百伏の矢並湿地で2014年7月27日)で球巣の確認による分布が確認された。足助地区では、久木町(床の口で2010年8月30日)で球巣の確認による分布が確認された。

文献調査では、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2013年の9月下旬に1件の記録(巣)がある(日本野鳥の会ほか、2014)。

f ハツカネズミ *Mus musculus* Linnaeus, 1758

現地調査では、調査期間中(2008年3月～2014年10月)にハツカネズミの生息確認はでき

なかった。

g ドブネズミ *Rattus norvegicus* (Berkenhout, 1769)

現地調査では、調査期間中（2008年3月～2014年10月）にドブネズミの生息確認はできなかった。

h クマネズミ *Rattus rattus* (Linnaeus, 1758)

現地調査では、調査期間中の2011年5月に聞き取りによって、1地区（旭）でクマネズミの分布が確認された。旭地区では、一色町の林道浅野線における生息が、地元住民50歳代男性からの聞き取りで確認された（2011年5月3日）。

(イ) ヌートリア科 MYOCASTORIDAE

a ヌートリア *Myocastor coypus* (Molina, 1782)

現地調査では、調査期間中の2009年10月～2014年10月にかけて、聞き取り情報・フィールドサインの確認・生体の目視や写真撮影によって3地区（猿投・保見・足助）でヌートリアの分布が確認された。

猿投地区では、西広瀬町の飯野川が矢作川に合流する河畔林における生息が、足跡の視認により確認された（2009年10月15日）。保見地区では、八草町石坂（八草駅のすぐ脇の小道）における生息が目撃され、撮影写真によって確認された（2014年10月15日）。足助地区では、則定町の本郷の小川における生息が、地元住民からの聞き取りで確認された（2010年12月11日）。



写真 XIV-4 ヌートリア 八草町  
2014年10月15日撮影 小池則満

(ウ) リス科 SCIURIDAE

a ニホンリス *Sciurus lis* Temminck, 1844

現地調査では、調査期間中の2008年6月～2014年7月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、9地区（高橋・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でニホンリスの分布が確認された。

高橋地区では、東山町（外環状線上でのロードキルオス1頭の死体を視認，2014年6月6日）の1町で合計1メッシュでの生息が確認された。石野地区では、上高町（2014年2月16日）と勘八町（2012年6月10日）の2町で合計2メッシュでの生息がともにロードキルでの死体を視認することによって確認された。松平地区では、岩倉町（2013年9月5日に生体が撮影）と松平町（松平郷で松ぼっくりの食痕を視認，2011年11月20日，2012年2月11日）の2町で合計2メッシュでの生息が確認された。藤岡地区では、御作町，西市野々町，三箇町，下川口町，上川口町の5町で合計6メッシュでの生息が確認された。小原地区では、永太郎町，大ケ蔵連町，小原



写真 XIV-5 ニホンリス 市木町南山  
2015年1月9日撮影 岡田慶範

北町，小原町，刈萱町，川下町，北篠平町，李町，千洗町，前洞町，三ツ久保町，遊屋町の12町で合計14メッシュでの生息が確認された。足助地区では，明川町，綾渡町，上八木町，大河原町，大蔵町，大多賀町，桑田和町，怒田沢町，東渡合町，久木町，平沢町，御内町，御蔵町，室口町，山谷町，四ツ松町，連谷町，月原町の18町で合計26メッシュでの生息が確認された。下山地区では，阿蔵町，大沼町，蕪木町，立岩町，羽布町の5町で合計7メッシュ（羽布町で3メッシュ，それ以外の町では各1メッシュ）での生息が確認された。旭地区では，池島町，一色町，牛地町，日下部町，榊野町，閑羅瀬町，杉本町，田津原町の8町で合計11メッシュ（牛地町で4メッシュ，それ以外の町では各1メッシュ）での生息が確認された。稲武地区では，稲武町，大野瀬町，小田木町，川手町，御所貝津町，富永町，野入町の7町で合計12メッシュ（稲武町で3メッシュ，大野瀬町，小田木町，御所貝津町で各2メッシュ，それ以外の町では各1メッシュ）での生息が確認された。

文献調査では，高橋地区東山町の豊田市自然観察の森（1町1メッシュ）において2013年の6月上旬～10月下旬に3件の記録がある（日本野鳥の会ほか，2014）。

b ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827)

現地調査では，調査期間中の2008年12月～2014年10月にかけて，聞き取り情報・生体の目視・フィールドサイン・ロードキル死体の確認等によって，9地区（高橋・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でムササビの分布が確認された。

高橋地区では，東山町（豊田市自然観察の森で6件の確認があり，いずれもムササビ用の巣箱に入ったもの），矢並町（矢並小の近くで1件の確認があり，フクロウ用の巣箱に入ったもの）の2町で合計4メッシュでの生息が確認された。石野地区では，勘八町，城見町，寺下町，中金町（甲堂にてロードキル死体オスの確認：2011年10月9日）の4町で合計4メッシュでの生息が確認された。松平地区では，岩倉町，幸海町，坂上町，石楠町，鍋田町，松平町，幸海町，石楠町の8町において合計7メッシュで11件の生息情報が確認された。藤岡地区では，石畳町，上川口町，北一色町，白川町，西市野々町，深見町，北曾木町，御作町の8町で合計8メッシュでの生息が確認された。小原地区では，市場町，岩下町，永太郎町，大ヶ蔵連町，大坂町，小原北町，小原田代町，小原町，鍛冶屋敷町，上仁木町，北大野町，雑敷町，李町，日面町，平岩町，築平町，遊屋町の17町で合計19メッシュでの生息が確認された。足助地区では，足助町，岩谷町，大多賀町，国閑町，霧山町，五反田町，沢ノ堂町，塩ノ沢町，下国谷町，下平町，新盛町，摺町，千田町，竜岡町，田振町，葛沢町，椿立町，西檜尾町，怒田沢町，則定町，東大見町，二タ宮町，御内町，岩神町，山ノ中立町，連谷町の26町で合計35メッシュでの生息が確認された。下山地区では，阿蔵町，宇連野町，大桑町，小松野町，下山田代町，立岩町，田平沢町，栃立町，梨野町，和合町の10町で合計9メッシュでの生息が確認された。旭地区では，浅谷町，旭八幡町，明賀町，有間町，伊熊町，市平町，牛地町，大坪町，押井町，小滝野町，小渡町，上切町，上中町，日下部町，榊野町，島崎町，下切町，下中町，杉本町，須渕町，惣田町，田津原町，東萩平町の23町で合計26メッシュでの生息が確認された。稲武地区では，稲武町，大野瀬町，



写真 XIV-6 ムササビ  
東山町自然観察の森  
2015年8月18日撮影 水野マリ子

押山町, 小田木町, 川手町, 黒田町, 桑原町, 御所貝津町, 富永町, 中当町, 夏焼町, 野入町, 武節町の 13 町で合計 15 メッシュでの生息が確認された.

文献調査では, 高橋地区東山町の豊田市自然観察の森 (1 町 1 メッシュ) において 2013 年 6 月上旬~2014 年 2 月下旬に 13 件の食痕や声等による記録がある (日本野鳥の会ほか, 2014).

c モモンガ *Pteromys momonga* Temminck, 1844

現地調査では, 調査期間中の 2010 年 5 月~2011 年 3 月にかけて, 聞き取り情報・生体の目視等によって, 1 地区 (稲武) でモモンガの分布が確認された.

確認された生息情報は 3 件であり, そのうちの 2 件は稲武地区の稲武町 (面ノ木峠・面ノ木原生林: 2010 年 5 月 5 日, 2010 年 11 月 6 日) の 1 メッシュで生体が目視されたものである. 残りの 1 件は同じ稲武地区の御所貝津町 (九澤: 2011 年 3 月 19 日) で地元住民 50 歳代男性からの聞き取りによる生息情報であった.



写真 XIV-7 モモンガ  
稲武町面ノ木峠  
2010 年 5 月 5 日撮影 松山 太

(エ) ヤマネ科 GLIRIDAE

a ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)

現地調査では, 調査期間中の 2011 年 3 月に聞き取り情報によって, 1 地区 (稲武) でヤマネの分布が確認された. 稲武地区の御所貝津町 (九澤: 2011 年 3 月 19 日) で地元住民 50 歳代男性からの聞き取りによる生息情報であった.



写真 XIV-8 ヤマネ  
稲武町名大演習林  
2008 年 10 月 11 日撮影 子安和弘

イ ウサギ目 LAGOMORPHA

(ア) ウサギ科 LEPORIDAE

a ノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck, 1845

現地調査では, 調査期間中の 2008 年 3 月~2014 年 6 月にかけて, 聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサイン (食痕や糞等) の確認等によって, 9 地区 (猿投・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武) でノウサギの分布が確認された.

猿投地区では, 西広瀬町の 1 町の 1 メッシュでの生息が確認された. 石野地区では, 上高町, 力石町の 2 町で合計 2 メッシュ 2 件の生息が確認された. 松平地区では, 岩倉町の 1 町で 1 メッシュで 1 件の生息が確認された. 藤岡地区では, 大岩町, 上川口町, 北一色町, 下川口町, 御作町の 5 町で合計 5 メッシュでの生息が確認された. 小原地区では, 市場町, 永太郎町, 大ケ蔵連町, 乙ケ林町, 小原町, 上仁木町, 川下町, 沢田町, 李町, 千洗町, 東郷町, 西丹波町, 日面町, 遊屋町の 14 町で合計 13



写真 XIV-9 ノウサギ 遊屋町  
2014 年 6 月 15 日撮影 岡田慶範

メッシュでの生息が確認された。足助地区では、明川町、足助町、大河原町、大蔵町、大多賀町、霧山町、五反田町、小手沢町、新盛町、田振町、栃ノ沢町、則定町、東大島町、東渡合町、久木町、平沢町、御内町、御蔵町、実栗町、山ノ中立町、四ツ松町、月原町の22町で合計28メッシュでの生息が確認された。下山地区では、蕪木町、黒坂町、和合町、羽布町、花沢町の5町で合計7メッシュでの生息が確認された。旭地区では、浅谷町、牛地町、小渡町、日下部町、閑羅瀬町の5町で合計5メッシュでの生息が確認された。稲武地区では、稲武町、大野瀬町、小田木町、黒田町、御所貝津町、富永町、武節町の7町で合計12メッシュでの生息が確認された。

#### ウ 霊長目 (サル目) PRIMATES

##### (ア) オナガザル科 CERCOPITHECIDAE

###### a ニホンザル *Macaca fuscata* (Blyth, 1875)

現地調査では、調査期間中の2009年8月～2013年3月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、7地区(挙母・保見・藤岡・小原・足助・旭・稲武)でニホンザルの分布が確認された。

挙母地区では、花丘町の1町で1メッシュの生息が確認された。保見地区では、浄水町の1町の1メッシュで生息が確認された。藤岡地区では、石畳町、西中山町の2町で計2メッシュでの生息が確認された。小原地区では、永太郎町、大平町、上仁木町、日面町の4町で合計4メッシュでの生息が確認された。足助地区では、足助町、大河原町、山ノ中立町、月原町の4町で合計4メッシュでの生息が確認された。旭地区では、一色町、下中町の2町で計2メッシュでの生息が確認された。稲武地区では、御所貝津町、大野瀬町の2町で合計3メッシュでの生息が確認された。

#### エ 偶蹄目 (ウシ目) ARTIODACTYLA

##### (ア) ウシ科 BOVIDAE

###### a カモシカ *Capricornis crispus* (Temminck, 1845)

現地調査では、調査期間以前からの情報も含めて2007年6月～2014年8月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、9地区(高橋・猿投・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武)でカモシカの分布が確認された。

高橋地区では、京ヶ峰の1町で1メッシュの生息が確認された。猿投地区では、猿投町の1町で計2メッシュの生息が確認された。松平地区では、岩倉町の1町で1メッシュの生息が確認された。藤岡地区では、上川口町、御作町の2町で計2メッシュの生息が確認された。小原地区では、永太郎町、大ヶ蔵連町、大平町、北篠平町、李町、日面町、松名町、遊屋町の8町で合計8メッシュでの生息が確認された。足助地区では、大河原町、霧山町、竜岡町、玉野町、近岡町、栃ノ沢町、東川端町、久木町、平沢町、御内町、御蔵町、岩神町、山谷町、山ノ中立町、四ツ松町、連谷町、月原町の17町で合計29メッシュでの生息が確認された。下山地区では、阿蔵町、黒坂町、下山田代町、



写真 XIV-10 カモシカ 京ヶ峰6丁目  
2010年11月9日撮影 岡田慶範

野原町，羽布町の5町で合計8メッシュでの生息が確認された。旭地区では，旭八幡町，有間町，一色町，小滝野町，閑羅瀬町，下中町，時瀬町の7町で合計8メッシュでの生息が確認された。稲武地区では，稲武町，大野瀬町，小田木町，川手町，黒田町，御所貝津町，富永町，中当町の8町で合計19メッシュでの生息が確認された。

(イ) シカ科 CERVIDAE

a ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1838

現地調査では，調査期間中の2009年2月～2014年10月にかけて，聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって，8地区（猿投・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でニホンジカの分布が確認された。

猿投地区では，猿投町（1件），西広瀬町（1件）の2町で計2メッシュ2件の生息情報が確認された。松平地区では，幸海町（1件）の1町で1メッシュ1件の生息情報が確認された。藤岡地区では，下川口町（1件），御作町（1件）の2町で計2メッシュ2件の生息情報が確認された。小原地区では，西丹波町（1件），日面町（1件）の2町で計2メッシュ2件の生息情報が確認された。足助地区では，岩谷町（1件），大河原町（1件），大多賀町（1件），怒田沢町（1件），御内町（1件），連谷町（1件）の6町で合計6メッシュで6件の生息情報が確認された。下山地区では，神殿町（1件），黒坂町（2件），下山田代町（2件），立岩町（1件），野原町（1件），和合町（1件），花沢町（1件）の7町で合計8メッシュ9件の生息情報が確認された。旭地区では，牛地町（1件），小渡町（2件），下中町（1件）の3町において合計4メッシュで4件の生息情報が確認された。稲武地区では，稲武町（6件），大野瀬町（5件），小田木町（2件），黒田町（3件），御所貝津町（4件），夏焼町（1件），武節町（1件）の7町において合計17メッシュで22件の生息情報が確認された。

(ウ) イノシシ科 SUIDAE

a イノシシ *Sus scrofa* Linnaeus, 1758

現地調査では，調査期間以前からの情報も含めて2004年4月～2014年9月にかけて，聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって，11地区（高橋・猿投・保見・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でイノシシの分布が確認された。

高橋地区では，京ヶ峰，矢並町の2町で計2メッシュの生息が確認された。猿投地区では，猿投町，西広瀬町の2町で合計3メッシュでの生息が確認された。保見地区では，大畑町，篠原町，保見町の3町で合計3メッシュでの生息が確認された。石野地区では，上高町，城見町，城見町，中金町，野口町，松嶺町，山中町の7町で合計5メッシュでの生息が確認された。松平地区では，岩倉町，幸海町，滝脇町，鍋田町，林添町，松平町，幸海町の7町で合計11メッシュでの生息が確認された。藤岡地区では，石畳町，大岩町，上川口町，上川口町，上渡合町，木瀬町，北一色町，三箇町，下川口町，白川町，田茂平町，西市野々町，西中山町，迫町，深見町，藤岡飯野町，北曾木町，



写真 XIV-11 イノシシ 城見町  
2010年11月15日撮影 鈴木勝己

御作町の 18 町で合計 20 メッシュでの生息が確認された。小原地区では、市場町、永太郎町、大ヶ蔵連町、大坂町、大平町、小原北町、小原町、鍛冶屋敷町、上仁木町、刈萱町、川下町、樽俣町、下仁木町、李町、千洗町、寺平町、西丹波町、日面町、松名町、三ツ久保町、宮代町、築平町、遊屋町の 23 町で合計 24 メッシュでの生息が確認された。足助地区では、明川町、足助町、有洞町、井ノ口町、上八木町、漆畑町、大井町、大河原町、大蔵町、大多賀町、霧山町、桑田和町、小町、小手沢町、下国谷町、下平町、新盛町、竜岡町、玉野町、近岡町、椿立町、栃ノ沢町、西檜尾町、怒田沢町、則定町、東大見町、東川端町、久木町、平沢町、御内町、御蔵町、実栗町、室口町、岩神町、山谷町、山ノ中立町、四ツ松町、連谷町、月原町、久木町の 40 町で合計 67 メッシュでの生息が確認された。旭地区では、浅谷町、旭八幡町、有間町、伊熊町、池島町、一色町、市平町、牛地町、小渡町、伯母沢町、加塩町、榊野町、笹戸町、閑羅瀬町、下中町、杉本町、須渕町、惣田町、坪崎町、時瀬町、東萩平町、楨本町、余平町の 23 町で合計 28 メッシュでの生息が確認された。稲武地区では、稲武町、大野瀬町、小田木町、黒田町、御所貝津町、富永町、野入町の 7 町で合計 14 メッシュでの生息が確認された。下山地区では、阿蔵町、蘭町、宇連野町、大桑町、大沼町、蕪木町、神殿町、黒坂町、下山田代町、立岩町、田平沢町、栃立町、梨野町、野原町、花沢町、東大林町、平瀬町、和合町、羽布町の 19 町で合計 31 メッシュでの生息が確認された。

文献調査では、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森（1 町 1 メッシュ）において 2013 年 4 月上旬～2014 年 3 月下旬に 24 件の記録がある（日本野鳥の会ほか，2014）。

## オ 食肉目（ネコ目） CARNIVORA

### （ア）ネコ科 FELIDAE

#### a ノネコ *Felis catus* Linnaeus, 1758

ノネコは家庭で飼育されているペットのネコ（イエネコ・飼い猫）が野生化したものであるが、「野生化」の前提である「野生環境下での繁殖」によって生まれたものかどうかは、死体あるいはフィールドサイン等では判別の難しいことが多い。したがって、ここでは人家から離れた場所で確認されており、首輪等の飼育下にある証拠のないものをすべて「ノネコ」として扱ったが、その中には「飼育下のネコ」あるいは「半野生状態のネコ」が含まれている可能性もある。

現地調査では、調査期間中の 2010 年 9 月～2013 年 12 月にかけて、主にロードキル死体の目視とその写真撮影によって、7 地区（高橋・猿投・石野・藤岡・小原・足助・稲武）でノネコ等の分布が確認された。

猿投地区では、越戸町の 1 町 1 メッシュで生息が確認された。石野地区では、手呂町の 1 町 1 メッシュで生息が確認された。高橋地区では、矢並町の 1 町 1 メッシュで生息が確認された。藤岡地区では、御作町（井ノ向：2012 年 3 月 22 日）の 1 町 1 メッシュで生息が確認された。小原地区では、小原町の 1 町 1 メッシュ 2 地点（堂ノ木：2012 年 7 月 25 日と大沼の国道 419 号上：2013 年 12 月 16 日）で生息が確認された。足助地区では、新盛町、久木町、御蔵町の 3 町で合計 3 メッシュで 4 件の生息が確認された。稲武地区では、黒田町、中当町の 2 町で計 2 メッシュでの生息が確認された。

文献調査では、調査期間以前の 2007 年に、生体の自動撮影や足跡等のフィールドサインの確認等によって、4 地区（猿投・石野・小原・旭）での分布が確認されている（野呂，2009）。

野呂 (2009) によるノネコの確認地は、猿投地区西広瀬町西前地内 (矢作川右岸), 石野地区東広瀬町ヲゴソ地内 (矢作川左岸), 小原地区百月町百月発電所上 (矢作川右岸), 旭地区小渡町小柳 (矢作川左岸) の4地区4町で各1メッシュの合計4メッシュであった。

(イ) ジャコウネコ科 VIVERRIDAE

a ハクビシン *Paguma larvata* (C. E. H. Smith, 1827)

現地調査では、調査期間中の2009年6月~2014年5月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、11地区(挙母・高橋・保見・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武)でハクビシンの分布が確認された。

挙母地区では、金谷町、水源町の2町で計2メッシュの生息が確認された。高橋地区では、渡合町(トヨタの森入り口道路周辺)及び矢並町の2町で計2メッシュの生息が確認された(個人宅前にて疥癬病で死亡していたオス, 2012年2月25日, 骨格標本は同年3月18日に確認: 骨格標本は豊橋市自然史博物館で収納)。保見地区では、保見町の1町1メッシュで生息が確認された(トヨタ健康保険組合スポーツセンター奥の池: 2012年3月11日)。石野地区では、中金町、野口町の2町の合計2メッシュで各1件合計2件のロードキル情報がえられ、それらの地での生息が確認された。



写真 XIV-12 ハクビシン 実栗町  
2013年12月6日撮影 岡田慶範

松平地区では、幸海町、鍋田町の2町で合計3メッシュでの生息が確認された。藤岡地区では、藤岡飯野町の1町1メッシュで生息が確認された(坂口: 2011年10月3日に目視情報を聞き取り)。小原地区では、永太郎町、小原町、北篠平町、西丹波町、日面町の5町で合計7メッシュでの生息が確認された。足助地区では、足助町、大井町、大河原町、霧山町、下佐切町、新盛町、田振町、葛町、富岡町、西檜尾町、久木町、実栗町、山ノ中立町、連谷町、月原町の15町で合計19メッシュでの生息が確認された。下山地区では、黒坂町の1町1メッシュで生息が確認された(2012年1月7日に地元住民60歳代夫婦からの聞き取り情報)。旭地区では、池島町、一色町、小渡町、榊野町、下中町、杉本町の6町で合計6メッシュでの生息が確認された。稲武地区では、稲武町、大井町、小田木町、御所貝津町の4町で合計4メッシュでの生息が確認された。

文献調査では、環境科学株式会社(2011)により、高岡地区の堤本町、堤町、竹町の3町で、猿投地区の青木町でハクビシンの生息情報が確認されている。また、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2014年2月下旬に1件の足跡による記録がある(日本野鳥の会ほか, 2014)。

(ウ) イヌ科 CANIDAE

a ノイヌ *Canis lupus familiaris* Linnaeus, 1758

ノイヌは家庭で飼育されているペットのイヌ(イエイヌ・飼い犬)が野生化したものであるが、「野生化」の前提である「野生環境下での繁殖」によって生まれたものかどうかは、死体あるいはフィールドサイン等では判別の難しいことが多い。したがって、ここでは人家から離れた場所で確認されており、首輪等の飼育下にある証拠のないものをすべて「ノイヌ」として

扱ったが、その中には「飼育下のイヌ」あるいは「半野生状態のイヌ」が含まれている可能性もある。

現地調査では、調査期間中の2012年11月にロードキル死体の目視によって、1地区(小原)でノイヌ等の分布が確認された。

文献調査では、調査期間以前の2007年に、足跡等のフィールドサインの確認等によって、3地区(猿投・石野・小原)での分布が確認されている(野呂, 2009)。野呂(2009)によるノイヌの確認地は、猿投地区西広瀬町西前地内(矢作川右岸)、石野地区東広瀬町ヲゴソ地内(矢作川左岸)、小原地区百月町百月発電所上(矢作川右岸)の3地区3町で各1メッシュの合計3メッシュであった。

#### b タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834)

現地調査では、調査期間以前からの情報も含めて2004年4月～2014年10月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、13地区(挙母・高橋・上郷・猿投・保見・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武)でタヌキの分布が確認された。

挙母地区では、水源町の1町で1メッシュ2件の生息情報が確認された。高橋地区では、渡合町、矢並町の2町で計3メッシュ3件の生息が確認された。上郷地区では、畝部東町、渡刈町の2町で合計2メッシュでの生息が確認された。猿投地区では、西広瀬町の1町1メッシュ1件で生息が確認された。保見地区では、保見町の1町で計2メッシュの生息が確認された。石野地区では、石野町、城見町、中切町の3町で合計4メッシュでの生息が確認された。松平地区では、幸海町、松平町の2町で合計2メッシュ2件の生息が確認された。藤岡地区では、上川口町、下川口町、御作町の3町で合計6メッシュでの生息が確認された。小原地区では、永太郎町、大平町、小原町、上仁木町、北篠平町、下仁木町、西丹波町、日面町、遊屋町の9町で合計12メッシュでの生息が確認された。足助地区では、足助町、大蔵町、箆林町、霧山町、桑田和町、新盛町、西檜尾町、則定町、東大島町、東川端町、久木町、平戸橋町、山ノ中立町、連谷町、月原町、中立町の16町で合計23メッシュでの生息が確認された。下山地区では、黒坂町の1町で計2メッシュ2件の生息が確認された。旭地区では、一色町、小滝野町、小渡町、榊野町、閑羅瀬町、下中町、杉本町の7町において合計7メッシュで8件の生息情報が確認された。稲武地区では、稲武町、大野瀬町、小田木町、黒田町、御所貝津町、中当町の6町で合計11メッシュでの生息が確認された。



写真 XIV-13 タヌキ 上川口町  
2010年7月26日撮影 岡田慶範

文献調査では、調査期間以前の2006～2007年に、足跡等のフィールドサインや生体の自動撮影等によって、4地区(猿投・石野・小原・旭)での分布が確認されている(野呂, 2009)。野呂(2009)によるタヌキの確認地は、猿投地区西広瀬町西前地内(矢作川右岸)、石野地区東広瀬町ヲゴソ地内(矢作川左岸)、小原地区百月町百月発電所上(矢作川右岸)、旭地区小渡町小柳(矢作川左岸)の4地区4町で各1メッシュの合計4メッシュであった。

c キツネ *Vulpes vulpes* (Linnaeus, 1758)

現地調査では、調査期間中の2010年1月～2013年8月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、10地区（上郷・高岡・保見・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でキツネの分布が確認された。

上郷地区では、畝部東町（2013年1月30日：麦歌で1頭のメス轢死体を標本として拾得、2014年1月29日メスの死体を標本として拾得）、福受町（2013年8月14日：王前で成体1頭の轢死体を確認）の2町で2メッシュ、合計3件の生息情報が確認された。高岡地区では、上丘町（2012年3月11日：3か所の巣穴の目撃）、竹町（2013年4月20日：生体1頭の目撃情報）の2町で計2メッシュの生息が確認された。保見地区では、浄水町



写真 XIV-14 キツネ 久木町  
2010年10月6日撮影 岡田慶範

（2012年7月27日：国道155号線上で道を横切る個体を目撃）、田舩町（2012年12月20日：県道215号線上でロードキルの死体を目撃）の2町で計2メッシュ計2件の生息情報が確認された。松平地区では、豊松町の1町で1メッシュ1件の生息（2013年3月2日：六所山の山麓で成体1頭の目撃）が確認された。藤岡地区では、上川口町（2011年3月19日：上川口浄水場[高土屋441-23]付近で糞を目撃）、下川口町（2010年12月29日：大沢池周辺で糞を目撃）の2町で合計2メッシュ計2件の生息情報が確認された。小原地区では、永太郎町、大平町、小原田代町、下仁木町、日面町、遊屋町の6町で合計6メッシュ6件の生息が確認された。足助地区では、足助町、大多賀町、小手沢町、新盛町、西檜尾町、久木町、御蔵町、山ノ中立町の8町で合計10メッシュでの生息が確認された。下山地区では、黒坂町の1町で計1メッシュの生息が確認された（2012年1月7日：地元住民60歳代夫婦からの聞き取り）。旭地区では、一色町（2011年5月3日：地元住民50歳代男性からの聞き取り）、下中町（2011年5月3日：地元住民60歳代男性からの聞き取り）の2町において合計2メッシュで2件の生息情報が確認された。稲武地区では、稲武町、大野瀬町、御所貝津町の3町で合計7メッシュでの生息が確認された（聞き取りとフィールドサイン）。

文献調査では、調査期間以前の2007年に、フィールドサイン（足跡）によって、2地区（小原・旭）での分布が確認されている（野呂，2009）。野呂（2009）によるキツネの確認地は、小原地区百月町百月発電所上（矢作川右岸）、旭地区小渡町小柳（矢作川左岸）の2地区2町での2メッシュであった。

(エ) クマ科 URSIDAE

a ツキノワグマ *Ursus thibetanus* G. [Baron] Cuvier, 1823

現地調査ならびにそれに準じる形での愛知県（愛知県クマ情報）及び豊田市（豊田市クマ情報）からの情報提供では、調査期間以前からの情報も含めて2004年9月～2014年2月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、9地区（猿投・保見・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）の61町で133件のツキノワグマの分布情報が確認された。

猿投地区では、猿投町（4件）、御船町（3件）の2町において合計4メッシュで7件（2006年度2件、2008年度1件、2010年度3件、2014年度1件）の生息情報が確認された。保見地

区では、篠原町（1件）、広幡町（2件）の2町で計3メッシュ、計3件（2006年度2件、2010年度1件）の生息情報が確認された。松平地区では、豊松町（1件）の1町で1メッシュ、1件の生息（2006年8月3日：クマの子どもらしきものを山中で目撃）が確認された。藤岡地区では、石畳町（1件）、折平町（2件）、上川口町（1件）、北一色町（4件）、西中山町（3件）、御作町（1件）の6町で合計8メッシュ、合計12件（2006年度1件、2007年度4件、2009年度1件、2010年度6件）の生息情報が確認された。小原地区では、永太郎町（1件）、大ケ蔵連町（8件）、大平町（1件）、柏ヶ洞町（2件）、北篠平町（1件）、雑敷町（1件）、沢田町（2件）、下仁木町（5件）、李町（1件）、川見町（2件）、寺平町（2件）、東郷町（4件）、荷掛町（1件）、前洞町（1件）の14町で合計17メッシュ、合計32件（2004年度1件、2006年度2件、2007年度3件、2009年度4件、2010年度22件）の生息が確認された。足助地区では、上八木町（1件）、大河原町（1件）、大多賀町（1件）、川面町（2件）、国谷町（1件）、桑田和町（4件）、五反田町（1件）、田振町（1件）、御蔵町（1件）、月原町（4件）の10町で合計13メッシュ、合計17件（2004年度2件、2006年度2件、2010年度9件、2011年度1件、2012年度1件、2013年度1件、2014年度1件）の生息が確認された。下山地区では、蘭町（1件）、黒坂町（1件）、東大林町（2件）、平瀬町（1件）、羽布町（1件）の5町において合計5メッシュで6件（2006年度1件、2007年度1件、2008年度1件、2009年度1件、2013年度2件）の生息情報が確認された。旭地区では、伊熊町（1件）、牛地町（1件）、大坪町（1件）、押井町（1件）、小渡町（3件）、加塩町（2件）、上中町（1件）、下中町（1件）、杉本町（2件）、坪崎町（1件）、時瀬町（1件）の11町において合計12メッシュで15件（2004年度4件、2005年度1件、2006年度5件、2007年度2件、2008年度1件、2010年度2件）の生息情報が確認された。稲武地区では、稲武町（1件）、大野瀬町（17件）、押山町（6件）、小田木町（3件）、川手町（8件）、黒田町（1件）、桑原町（1件）、桑原町（1件）、夏焼町（1件）、野入町（1件）の10町において合計20メッシュで40件（2004年度2件、2005年度1件、2006年度3件、2007年度1件、2008年度3件、2009年度2件、2010年度26件、2011年度1件、2013年度1件）の生息情報が確認された。



写真 XIV-15 ツキノワグマ  
大ケ蔵連町  
2010年12月16日撮影 岡田歩夢

(オ) イタチ科 MUSTELIDAE

a テン *Martes melampus* (Wagner, 1840)

現地調査では、調査期間中の2008年3月～2013年9月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、7地区（松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でテンの分布が確認された。

松平地区では、岩倉町（1件）の1町で1メッシュで1件（2011年3月8日に生体が撮影）の生息情報が確認された。藤岡地区では、北一色町（1件）、下川口町（2件）、御作町（1件）の3町で合計3メッシュ、合計4件（2010年度3件、2012年度1件）の



写真 XIV-16 テン 稲武町  
2013年2月17日撮影 原田哲

生息情報が確認された。小原地区では、永太郎町（1件）、小原町（1件）、鍛冶屋敷町（1件）、木瀬町（1件）、李町（1件）、千洗町（1件）、日面町（1件）、遊屋町（1件）の8町で7メッシュ、8件（2009年度3件、2010年度2件、2011年度1件、2012年度1件、2013年度1件）の生息が確認された。足助地区では、足助町（2件）、大河原町（1件）、大多賀町（1件）、霧山町（1件）、小手沢町（1件）、西檜尾町（3件）、東川端町（1件）、久木町（1件）、御内町（1件）、岩神町（2件）、連谷町（1件）、月原町（2件）の12町で合計14メッシュ、合計17件（2007年度1件、2008年度1件、2009年度4件、2010年度4件、2011年度4件、2012年度2件、2013年度1件）の生息が確認された。下山地区では、羽布町（1件）の1町で1メッシュ、1件（2011年11月14日：羽布町鬼ノ平で糞を目撃）の生息情報が確認された。旭地区では、旭八幡町（2件）、小渡町（1件）の2町において合計3メッシュで3件（2010年度2件、2011年度1件）の生息情報が確認された。稲武地区では、稲武町（2件）、小田木町（3件）、黒田町（1件）、御所貝津町（3件）、中当町（2件）の5町において合計8メッシュで11件（2009年度1件、2010年度7件、2012年度3件）の生息情報が確認された。

b アナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1844

現地調査では、調査期間中の2009年8月～2014年4月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、5地区（石野・小原・足助・旭・稲武）でアナグマの分布が確認された。

石野地区では、城見町（2件）、中金町（1件）の2町において合計3メッシュで3件（2009年度1件、2012年度1件2頭、2013年度1件）の生息情報が確認された。城見町での2件は、ともに植物分野調査員の鈴木勝己氏より提供された捕獲された個体の生体写真情報であり、2009年8月9日に城見町で1頭、2012年10月31日に2頭の個体が同時に1つのオリで捕獲されたものである。小原地区では、遊屋町（1件）の1町において1メッシュで1件（2010年9月30日：遊屋町ナカヤでロードキルの個体が小原中部小職員によって目撃）の生息情報が確認された。足助地区では、上八木町（1件）、東大島町（1件）、東渡合町（1件）、久木町（1件）の4町で合計4メッシュ、合計4件（2010年度3件、2014年度1件）の生息が確認された。旭地区では、田津原町（1件）の1町において1メッシュで1件（2012年4月12日：田津原町静滝での記録）の生息情報が確認された。稲武地区では、小田木町（1件）、中当町（1件）の2町において合計2メッシュで2件（2011年度2件）の生息情報が確認された。



写真 XIV-17 アナグマ 久木町  
2014年4月24日撮影 岡田慶範

c ニホンイタチ *Mustela itatsi* Temminck, 1844

この項目では、ニホンイタチ (*Mustela itatsi*) と確実に同定された6件の情報のほかに、「イタチ」あるいは「イタチ類の一種」とされたもの (*Mustela* sp. あるいは *Mustela* spp.) を「イタチ類」として扱う。

現地調査では、調査期間中の2009年3月～2013年9月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、10地区（高橋・高岡・保見・松平・

藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武) でニホンイタチとイタチ類の分布が確認された。

確実にニホンイタチと同定されたものは、2009年6月～2013年9月にかけて、6地区(保見・松平・藤岡・小原・足助・稲武)での分布が確認された。同定の根拠は、各個体の撮影写真による尾長と頭胴長の比率(尾率)が50%未満であることや、毛皮の色彩(ニホンイタチは全体的に暗褐色でシベリアイタチは全体的に明るい黄色かくすんだ黄色)によるものである。

保見地区では、広幡町の(1件)の1町で1メッシュ、1件(2009年度1件)の生息情報が確認された。松平地区では、岩倉町(1件)の1町で1メッシュ、1件(2011年度1件)の生息情報が確認された。藤岡地区では、御作町の(1件)の1町で1メッシュ、1件(2013年度1件)の生息情報が確認された。小原地区では、北篠平町(1件)、遊屋町(1件)の2町で2メッシュ、2件(2012年度2件)の生息が確認された。足助地区では、東渡合町の(1件)の1町で1メッシュ、1件(2012年度1件)の生息情報が確認された。稲武地区では、小田木町(1件)の1町において合計1メッシュで1件(2010年9月26日、小田木町町川入の国道153号線上でロードキルの轢死体を撮影)のニホンイタチの生息情報が確認された。

上記の「ニホンイタチ」と記載あるいは同定されたものを除いて、「イタチ」あるいは「イタチ類の一種」とされたものは、2009年3月～2013年3月にかけて、8地区(高橋・高岡・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武)での分布が確認された。

高橋地区では、高橋町(1件)、東山町(1件)の2町で2メッシュ、2件(2011年度1件、2012年度1件)イタチ類の生息が確認された。高岡地区では、上丘町(1件)の1町で1メッシュ、1件(2011年度1件)イタチ類の生息が確認された。藤岡地区では、木瀬町(1件)、御作町(1件)の2町で2メッシュ、2件(2010年度2件)イタチ類の生息情報が確認された。小原地区では、西丹波町(1件)、日面町(1件)、遊屋町(1件)の3町で3メッシュ、3件(2011年度2件、2012年度1件)イタチ類の生息が確認された。足助地区では、大河原町(2件)、大蔵町(1件)、久木町(2件)、月原町(1件)の4町で5メッシュ、6件(2010年度3件、2011年度2件、2012年度1件)イタチ類の生息情報が確認された。下山地区では、阿蔵町(1件)、平瀬町(1件)の2町で2メッシュ、2件(2008年度1件、2012年度1件)イタチ類の生息が確認された。旭地区では、小渡町(1件)、加塩町(1件)、榊野町(1件)、笹戸町(1件)、杉本町(1件)の5町で5メッシュ、5件(2010年度2件、2012年度3件)イタチ類の生息が確認された。稲武地区では、中当町(1件)の1町で1メッシュ、1件(2011年度1件)イタチ類の生息が確認された。

文献調査では、調査期間以前の2007年に、足跡や糞等のフィールドサインによって、3地区(石野・小原・旭)で「イタチ類の一種」の分布が確認されている(野呂, 2009)。野呂(2009)によるイタチ類の確認地(すべてフィールドサインによる)は、次のとおりであった。石野地区東広瀬町ヲゴソ地内(矢作川左岸)(2007年)、小原地区百月町百月発電所上(矢作川右岸)と同地区樽俣町樽俣川合流点付近(矢作川右岸)(いずれも2007年)、旭地区小渡町小柳(矢作川左岸)(2006年11月12・13日)の3地区4町での4メッシュ、計4件であった。また、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2013年10月上旬～2014年3月下旬に3件の「イタチ」に関する記録がある(日本野鳥の会ほか, 2014)。

#### d シベリアイタチ *Mustela sibirica* Pallas, 1773

現地調査では、調査期間中の2013年3月～2014年10月にかけて、聞き取り情報・生体やロ

ードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、5地区（挙母・猿投・松平・藤岡・足助）でシベリアイタチの分布が確認された。

挙母地区では、陣中町の（1件）の1町で1メッシュ、1件（2014年度1件）の生息情報が確認された。猿投地区では、越戸町（2件）の1町で1メッシュ、2件（2014年度2件）の生息情報が確認された。これは、越戸町松葉の個人宅において屋根裏に糞があるのが確認され（写真撮影は2014年4月17日）、当初ハクビシンと考えて業者に駆除が依頼されたものである。その後、業者に生け捕りワナで捕獲された個体の生体写真を確認したところ、毛皮の毛色や尾率等からシベリアイタチと同定されたものである（個体の捕獲日と写真撮影は2014年5月8日）。業者に駆除が依頼された経緯として、「自宅屋根裏に哺乳類が住み着いている」



写真 XIV-18 シベリアイタチ 越戸町  
2014年5月8日撮影 山下久子

ということが動機となっており、そこでシベリアイタチの生活がなされていたのは確実である。松平地区では、岩倉町の（1件）の1町で1メッシュ、1件（2012年度1件）の生息情報が確認された。藤岡地区では、御作町井戸上（1件）の県道485号上の1町で1メッシュ、1件（2013年5月12日）の生息情報（ロードキルのオス死体写真）が確認された。足助地区では、霧山町郷戸（1件）の県道343号上での1町で1メッシュ、1件（2014年10月22日）の生息情報（ロードキルのオス死体写真）が確認された。

#### (カ) アライグマ科 PROCYONIDAE

##### a アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758)

現地調査では、調査期間中の2010年1月～2014年8月にかけて、聞き取り情報・生体やロードキル死体の目視・フィールドサインの確認等によって、8地区（上郷・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でアライグマの分布が確認された。

上郷地区では、畝部東町（1件）の1町で1メッシュ、1件の生息（2012年5月25日：矢作川堤防沿いの道路上・天神橋近く右岸で事故死した轢死体の目撃）が確認された。松平地区では、坂上町（2件）の1町で合計1



写真 XIV-19 アライグマ 四郷町  
2015年7月8日撮影 梅村利幸

メッシュ、合計2件（いずれも2014年8月2日）の生息が確認された。2件とも須茂貝内（仁王川右岸）の河畔の砂地に残された足跡で、1件は間違いなくアライグマのものであったが、もう1件はアライグマらしきもの（アライグマ？）で、確実な同定には至らなかったものである。藤岡地区では、北一色町（1件）、下川口町（1件）、藤岡飯野町（2件）の3町で合計4メッシュ、合計4件（2010年度2件、2011年度1件、2014年度1件）の生息情報が確認された。小原地区では、大平町（1件）、北篠平町（1件）、樽俣町（1件）、西丹波町（1件）、日面町（1件）、遊屋町（1件）の6町で合計6メッシュ、合計6件（2009年度1件、2010年度4件、2011年度1件）の生息が確認された。足助地区では、久木町（1件）、御内町（1件）の2町で2メッシュ、2件の生息（2010年度1件、2012年度1件）が確認された。下山地区では、

蕪木町 (1 件), 黒坂町 (1 件), 東大林町 (1 件) の 3 町において合計 3 メッシュで 3 件 (2010 年度 1 件, 2011 年度 1 件, 2013 年度 1 件) の生息情報が確認された. 旭地区では, 一色町 (1 件), 下中町 (1 件), 榊野町 (1 件), 須渕町 (1 件) の 4 町において合計 4 メッシュで 4 件 (2011 年度 3 件, 2012 年度 1 件) の生息情報が確認された. 稲武地区では, 大野瀬町 (1 件), 御所貝津町 (1 件), 富岡町 (1 件) の 3 町において合計 3 メッシュで 3 件 (2011 年度 1 件, 2012 年度 1 件, 2013 年度 1 件) の生息情報が確認された.

文献調査 (野呂, 2009) では, 調査期間以前の 2006 年と 2007 年に, 足跡や糞等のフィールドサインならびに自動撮影カメラによる撮影によって, 3 地区 (石野・小原・旭) でアライグマの分布が確認されている. 野呂 (2009) によるアライグマの確認地は, 次のとおりであった. 石野地区東広瀬町ヲゴソ地内 (矢作川左岸) (2006 年 12 月 9~11 日), 小原地区百月町百月発電所上 (矢作川右岸, 2007 年), 旭地区小渡町小柳 (矢作川左岸, 2007 年) の 3 地区 3 町での 3 メッシュ, 計 3 件であった. また, 高橋地区東山町の豊田市自然観察の森 (1 町 1 メッシュ) において 2014 年 2 月の月上旬と下旬に計 2 件の足跡による記録がある (日本野鳥の会ほか, 2014).

## カ 翼手目 (コウモリ目) CHIROPTERA

### (ア) キクガシラコウモリ科 RHINOLOPHIDAE

#### a キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774)

現地調査では, 調査期間中の 2008 年の 8 月 27 日と 11 月 28 日に生体の目視 (それぞれ 3 頭と 1 頭) によって, 1 地区 (旭地区牛地町の寺洞トンネル) 1 メッシュで 2 件, キクガシラコウモリの分布が確認された.

#### b コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835

現地調査では, 調査期間中の 2008 年 11 月~2013 年 11 月にかけて, 生体の目視・フィールドサイン (死体目視) の確認等によって, 3 地区 (挙母・足助・旭) でコキクガシラコウモリの分布が確認された.

挙母地区では, 平和町 (2 件) の 1 町において合計 1 メッシュで 2 件 (2013 年度 2 件) の生息情報が確認された. 足助地区では, 霧山町 (1 件), 久木町 (1 件) の 2 町で 2 メッシュ, 2 件の生息 (2012 年度 2 件) が確認された. 旭地区では, 牛地町 (1 件), 閑羅瀬町 (1 件), 時瀬町 (1 件) の 3 町において合計 3 メッシュで 3 件 (2008 年度 2 件, 2012 年度 1 件) の生息情報が確認された.



写真 XIV-20 キクガシラコウモリ  
牛地町寺洞トンネル  
2008 年 11 月 28 日撮影 岡田慶範



写真 XIV-21 コキクガシラコウモリ  
牛地町水槽連絡坑  
2008 年 11 月 28 日撮影 岡田慶範

(イ) ヒナコウモリ科 VESPERTILIONIDAE

a ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas, 1911

現地調査では、調査期間中の2014年4月27日に死体拾得によって、1地区（猿投地区越戸町上井畑の矢作川右岸）でヤマコウモリの分布が確認された。文献調査では、調査期間以前の1993年10月9日と2003年4月3日に、どちらも生体の写真が高橋地区京ヶ峰の豊田市自然観察の森において1メッシュ2件で撮影されている（子安・佐竹，2008；子安ほか，2008）。



写真 XIV-22 ヤマコウモリ  
越戸町上井畑  
2014年4月27日撮影 岡田慶範

b アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (Temminck, 1838)

現地調査では、調査期間中の2014年5月2日にメスの死体拾得によって、1地区（上郷地区豊栄町）でアブラコウモリの分布が確認された。文献調査では、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森（1町1メッシュ）において2013年7月下旬～10月上旬に計6件の観察記録がある（日本野鳥の会ほか，2014）。

c ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)

現地調査では、調査期間中の2008年4月6日に杉山時雄氏による生体の写真撮影情報がよせられ、1地区（松平地区岩倉町）でヒナコウモリの分布が確認された。

d モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)

現地調査では、調査期間以前からの情報も含めて2006年11月～2013年11月にかけて、生体の目視や捕獲による確認等によって、3地区（挙母・足助・旭）でモモジロコウモリの分布が確認された。

挙母地区では、平和町（2件）の1町において合計1メッシュで2件（2013年度2件）の生息情報が確認された。足助地区では、霧山町（1件）、則定町（1件）、戸中町（1件）の3町で2メッシュ、3件の生息（2010年度1件，2011年度2件）が確認された。旭地区では、牛地町（2件）、時瀬町（1件）の2町において合計3メッシュで3件（2006年度1件，2008年度1件，2012年度1件）の生息情報が確認された。



写真 XIV-23 ヒナコウモリ  
安城市日の出町  
2003年7月8日撮影 小鹿登美



写真 XIV-24 モモジロコウモリ  
平和町  
2013年11月13日撮影 岡田慶範

e テングコウモリ *Murina hilgendorfi* (Peters, 1880)

現地調査では、調査期間中の2011年2月18日に、生体の捕獲による確認によって、1地区（小原地区百月町の百月発電所導水路内）でテングコウモリ雌雄不明1頭の分布が確認された。

f 種名不明の翼手目（翼手類）

現地調査では、調査期間中の2011年2月～2013年6月にかけて、生体の目視やロードキル情報の入手、糞等のフィールドサインによる確認によって、5地区（保見・小原・下山・旭・稲武）で種名不明の翼手類（コウモリ的一种あるいはコウモリ類）の分布が確認された。

保見地区では、貝津町の保見交流館付近（1件）の1町において合計1メッシュで1件（2011年度1件）3頭のコウモリ類の生息情報が確認された。小原地区では、下仁木町の下仁木交差点付近（1件）、日面町道場（1件）の2町において合計2メッシュで2件（2010年度1件、2012年度1件）コウモリ類の生息情報が確認された。下山地区では、宇連野町の八幡神社（1件）、高野町の諏訪神社（1件）の2町において合計2メッシュで2件（2013年度2件）コウモリ類の生息情報が確認された。旭地区では、杉本町鳥井前（1件）の1町において1メッシュで1件（2013年1月13日）コウモリ類の生息情報が確認された。稲武地区では、夏焼町コヤノサワの神社（1件）と住宅（1件）の1町において合計1メッシュで2件（2012年度2件）コウモリ類の生息情報が糞によるフィールドサインで確認された。

文献調査（野呂，2009）では、調査期間以前の2006年と2007年に、「コウモリ的一种」として、3地区（石野・小原・旭）で翼手類（翼手目）の分布が確認されている。野呂（2009）による「コウモリ的一种」の確認地は、次のとおりであった。石野地区東広瀬町ヲゴソ地内（矢作川左岸，2007年）においてバットディテクター（コウモリの発する超音波を感受する装置）で45kHz・52kHzのピーク周波数（2件）、小原地区百月町百月発電所上（矢作川右岸，2007年）で45kHz・52kHzのピーク周波数（2件）、小原地区樽俣町の樽俣川合流点付近（矢作川右岸，2007年）で45kHz・52kHzのピーク周波数（2件）、旭地区小渡町小柳（矢作川左岸，2007年）で25kHz・45kHz・52kHzのピーク周波数（3件）がそれぞれ感受されており、2007年に野呂（2009）によって「コウモリ的一种」の生息が確認されたのは3地区4町での4メッシュ、合計9件であった。

キ 食虫目（モグラ目） SORICOMORPHA

(ア) モグラ科 TALPIDAE

a ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck, 1841

現地調査では、調査期間中の2009年5月～2014年6月にかけてワナによる採集調査や死体拾得等の手段による4地区（高橋・小原・足助・稲武）でヒミズの分布が確認された。

高橋地区では、東山町の豊田市自然観察の森内（2014年6月29日1頭）の1町1メッシュで乳歯を持つ幼体の死体が拾得されてその生息が確認された。小原地区では、上仁木町（蒔本で乳歯を持つ幼体の死体を拾得：2013年4月18日1頭）、下仁木町（広美で死体を目視：2012



写真 XIV-25 ヒミズ 上仁木町  
2013年4月18日撮影 岡田慶範

年5月24日1頭), 宮代町(出見セで死体を確認: 2011年11月3日1頭), 千洗町(道慈小学校横の山で捕獲: 2009年5月3日1頭), 遊屋町(小原中部小学校でロードキル死体を確認: 2012年4月10日1頭)の5町5メッシュで死体拾得や捕獲がなされている。足助地区では, 久木町(宮ノ洞で死体を目視: 2010年6月2日1頭), 御内町(金沢段戸国有林で捕獲: 2009年8月15日1頭), 大蔵町(神田で捕獲: 2010年1月29日1頭, 同年10月17日1頭), 明川町(林道武瀬田線で死体を目視: 2010年6月5日)の4町4メッシュで捕獲等による生息確認がなされた。稲武地区では, 2010年7月31日の聞き取り調査で稲武町面ノ木峠の原生林でヒミズを目撃したとの情報を得ているほか, 稲武町(面ノ木峠 2010年8月1日1頭, 同年8月29日2頭), 御所貝津町(2010年5月3日1頭), 黒田町(2009年9月20日1頭)の3町3メッシュでヒミズが捕獲された。

文献調査では, 野呂(2009)による2007年の調査で猿投地区の西広瀬町で2頭, 石野地区の東広瀬町で1頭, 小原地区の樽俣町(標高160m)で2頭, 百月町で2頭, 旭地区の小渡町で1頭が捕獲されている。また, 高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2013年の5月上旬と7月上旬に計2件の観察記録がある(日本野鳥の会ほか, 2014)ほか, 高橋地区古瀬間町で2003年~2005年に育雛の見られたフクロウの巣箱からヒミズの骨が11個体分発見されている(真野・杉山, 2008)。

b ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* (Günther, 1880)

ミズラモグラについては調査期間中の現地調査において, ワナによる捕獲も聞き込みによる分布確認もできなかった。

文献調査では, 子安ほか(2001)及びそれを引用した子安・織田(2009)に足助地区大多賀町の寧比曾岳林道950m付近での死体拾得記録がある(同定者は当時愛知教育大学の金森正臣氏)。また, 確認年月日等詳細は不明であるが, 1995年(平成7年)3月に発行された「豊田市自然観察の森 自然環境調査報告書」には「ミズラモグラは市内王滝町で斃死体を採集している」という記述がある。

c アズマモグラ *Mogera imaizumii* (Kuroda, 1957)

現地調査では, 調査期間中の2009年2月~2010年11月にかけて, フィールドサイン(坑道の長径による), 死体の拾得による確認によって, 2地区(藤岡・小原)でアズマモグラの分布が確認された。藤岡地区では, 2009年2月15日に深見町「昭和の森」の1町1メッシュにおいて数か所でアズマモグラの掘ったものと考えられる坑道(内径2.8~3cm)が目視されている。小原地区では, 2010年11月8日に上仁木町日面の1町1メッシュで1件の死体(原記載ではオス)が目視されている。

d コウベモグラ *Mogera wogura* (Temminck, 1842)

この項目では, コウベモグラ(*Mogera wogura*)と確実に同定された情報(文献情報も含む)のほかに, 「モグラ類」, 「モグラ類の一種」, 「モグラ sp.」とされたもの(*Mogera* sp.あるいは*Mogera* spp.)を扱う。

「コウベモグラ」, 「モグラ類」, 「モグラ類の一種」, 「モグラ sp.」とされたものは, 現地調査では調査期間中の2009年3月~2013年8月にかけて, 聞き取り情報・捕獲や死体の目視・

フィールドサイン（坑道の長径）の確認等によって、9地区（高橋・猿投・保見・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）でコウベモグラを含むモグラ類の分布が確認された。

上記のうち、「コウベモグラ」とされたものは、2009年3月～2014年6月にかけて、7地区（高橋・保見・小原・足助・下山・旭・稲武）での分布が確認された。これらの中には多少とも「アズマモグラ」の情報が混入している可能性がある。現地調査で「コウベモグラ」とされた7地区の記録は次のとおりである。

高橋地区では、東山町の豊田市自然観察の森（1件）の1町において合計1メッシュで1件（2014年6月29日）コウベモグラ幼体の標本と写真が確認された。保見地区では、大清水町のブドウ園（2件）の1町において合計1メッシュで2件（2012年11月4日：坑道確認，2014年4月10日：ブドウ園の農作業中に捕獲の情報）コウベモグラの生息情報が確認された。小原地区では、大ケ蔵連町（1件）、北篠平町（1件）の2町において合計2メッシュで2件（2011年度1件，2012年度1件）「コウベモグラ」（原記載）の死体が確認された。足助地区では、大蔵町（2件）、久木町（1件）の2町において合計2メッシュで3件（2010年10月18日捕獲：久木町床ノ口，2011年10月2日死体：大蔵町柳ハザマ，2012年7月8日死体：大蔵町神田）「コウベモグラ」（原記載）の捕獲個体や死体が確認された。下山地区では、大桑町（3件）、蕪木町（1件）、平瀬町（2件）、和合町（3件）の4町において合計7メッシュで9件（2008年度1件，2009年度3件，2010年度1件，2011年度4件）コウベモグラのフィールドサイン（坑道）が確認された。旭地区では、上切町の白山神社（1件）の1町において1メッシュで1件（2012年8月24日）「コウベモグラ」の死体（原記載はオス）が確認された。稲武地区では、黒田町の黒田ダム近くにある裏の山と道（2009年9月19日，1件）、御所貝津町千保田の民家（2011年5月，1件）の2町において合計2メッシュで2件（2009年度1件，2011年度1件）コウベモグラの死体や標本が確認された。

現地調査で「モグラ類」とされたものは、2010年5月～2013年8月にかけて、7地区（旭・稲武・猿投・下山・小原・足助・藤岡）での分布が確認された。これらの中には、「コウベモグラ」と「アズマモグラ」の両種の情報が混在していると考えられる。現地調査で「モグラ類」とされた7地区の記録は次のとおりである。

旭地区では、杉本町（1件）、東萩平町（1件）、田津原町（1件）、下中町（2件）、須渕町（1件）の5町において5メッシュで6件（2012年8月24日）モグラ類のフィールドサイン（坑道やモグラ塚）が確認された。稲武地区では、稲武町（1件）、小田木町（1件）、黒田町（1件）、御所貝津町（1件）、富永町（1件）、中当町（2件）の6町において合計7メッシュで7件（2010年度1件，2011年度2件，2012年度4件）モグラ類のフィールドサイン（坑道やモグラ塚）が確認された。猿投地区では、越戸町（2件）の1町において1メッシュで2件（ともに2011年5月23日）モグラ類のフィールドサイン（坑道の存在情報）が確認された。下山地区では、黒坂町（1件）の1町において1メッシュで1件（2012年12月15日，黒坂町の旧三巴小学校）モグラ類のフィールドサイン（坑道）が確認された。小原地区では、乙ケ林町（1件）、雑敷町（1件）、下仁木町（1件）、西丹波町（2件）の4町において合計4メッシュで5件（2012年度4件，2013年度1件）モグラ類のフィールドサイン（坑道）が確認された。足助地区では、竜岡町（1件）の1町において1メッシュで1件（2013年1月13日）モグラ類のフィールドサイン（モグラ塚）が確認された。藤岡地区では、上渡合町（1件）、木瀬町（1件）の2町において合計2メッシュで2件（2013年1月13日：木瀬町向戸でモグラ塚確認，

2013年3月9日：上渡合町井ノ脇で坑道の確認) モグラ類の生息情報が確認された。

「コウベモグラ」に関する文献調査では、野呂(2009)による2007年の調査で、猿投地区西広瀬町の西前地内(矢作川右岸)、石野地区東広瀬町ヲゴソ地内(矢作川左岸)、小原地区百月町の百月発電所上(矢作川右岸)、旭地区小渡町小柳(矢作川左岸)のそれぞれ1メッシュ、1件、合計4町4メッシュ4件のフィールドサイン(「長径5cm以上のトンネル」)が目視されている。また、高橋地区東山町の豊田市自然観察の森(1町1メッシュ)において2014年1月上旬に1件の観察記録がある(日本野鳥の会ほか, 2014)。

「モグラ類の一種」に関する文献調査では、野呂(2009)による2007年の調査で2地区(小原・旭)での記述があり、小原地区榑俣町の榑俣川合流点付近(矢作川右岸)、小原地区百月町の百月発電所上(矢作川右岸)、旭地区小渡町小柳(矢作川左岸)のそれぞれ1メッシュ、1件、合計3町3メッシュ3件のフィールドサイン(「長径4cm前後のトンネル」)が目視されている。また、高橋地区古瀬間町で2003年～2005年に育雛のみられたフクロウの巣箱からコウベモグラではない「モグラ科の一種」の骨が11個体分発見されている(真野・杉山, 2008)。

#### (イ) トガリネズミ科 SORICIDAE

##### a ジネズミ *Crocidura dsinezumi* (Temminck, 1842)

現地調査では、調査期間中の2010年12月～2013年11月にかけて、死体の確認(拾得や視認・写真撮影)によって、3地区(藤岡・小原・足助)でジネズミの分布が確認された。

藤岡地区では、西中山町道具(1件)の1町において1メッシュで1件(2013年11月28日死体の写真撮影)の生息が確認された。小原地区では、川見町大麦田(1件)の1町において1メッシュで1件(2010年12月2日死体, 原記載はメス)の生息が確認された。足助地区では、東川端町の足助発電所導水路(1件)の1町において合計1メッシュで1件(2011年3月2日死体)の生息が確認された。



写真 XIV-26 ジネズミ 川見町  
2010年12月2日撮影 岡田慶範

##### b カワネズミ *Chimarrogale platycephalus* (Temminck, 1842)

現地調査では、調査期間中の2012年5月～同年11月に2地区2メッシュで2件の情報が得られた。2012年5月26日には松平地区豊松町の王滝溪谷において生体の遊泳している姿が撮影されている。2012年11月3日に、調査中の名城大学大学院生からの情報によって、1地区(足助)でカワネズミの分布が確認された。

文献調査では、齊藤ほか(2013)による2011年の捕獲調査で1地区(足助)での記述があり、足助地区御内町大奥山と同町萩ヶ根での捕獲結果が記されている(齊藤ほか, 2013)。齊藤ほか(2013)は御内町内を流れる神越川の3支流でA～Cの地域をさだめ、359個設置した金属製のカゴワナで総計(延べ数)21個体のカワネズミを捕獲し、それのうち4個体が再捕獲されたものという。A～Cの捕獲区域はそれぞれ1次メッシュの1区画をのみ



写真 XIV-27 カワネズミ 豊松町  
2012年5月26日撮影 大内秀之

出して広がっているが、この報告では便宜上、最も多くのワナ設置地点の含まれる1メッシュをA～C区画の代表メッシュとして抽出した。ワナ区画Aは御内町大奥山で2011年6月20日～同年12月1日に設置されたワナにより4個体が捕獲されている。ワナ区画Bも御内町大奥山で2011年8月28日～同年12月1日に設置されたワナにより6個体が捕獲されている。ワナ区画Cは御内町萩ヶ根で2011年5月30日～同年11月29日に設置されたワナにより4個体が捕獲されている。

#### 4 考察と保全の提言

今回の調査結果から得られる考察並びに保全に関する提言を以下に述べていくが、紙面の制約から外来種や幾つかの問題の提起される種を中心に記述を行い、均等な記述は行っていないのでご了承願いたい。

調査結果の概要から見られるように、今回の調査によって豊田市内では齧歯目13種、ウサギ目1種、霊長目1種、偶蹄目3種、食肉目11種、翼手目7種、食虫目6種となり、7目42種の生息が確認された。ただし、食肉目のうちのツキノワグマは現時点では市内での繁殖は確認されておらず（子グマ2頭をつれた母親が親子で捕獲されたことはある）、「市内で個体群が維持されている」という意味では「生息している」種とはいいがたいが、歴史的な観点からは「個体群の回復がなされつつある」という可能性がかなり高いといえるので、生息種の一員として含めるのに十分な根拠があるといえるだろう。また、翼手目のヤマコウモリやテングコウモリも確認個体数や確認件数の少なさと飛翔性の哺乳類で移動距離も大きいことから豊田市外からの迷入の可能性も必ずしも否定はできない。ただし、ヤマコウモリは冬眠あけの時期に当たる2003年4月3日に飛翔していたもの（高橋地区京ヶ峰：子安ほか、2008）や4月23日に死体を拾得したもの（猿投地区越戸町：2014年の現地調査による）であり、1993年10月9日に豊田市自然観察の森の旧ネイチャーセンター（高橋地区京ヶ峰：子安ほか、2001；子安・佐竹、2008）も2003年4月に撮影されたケースと同一の敷地内であり、これらの生体が確認された地点と2014年に死体が拾得された越戸町の地点が直線距離で2～3kmしか離れていないことから、ヤマコウモリの冬眠場所が高橋地区京ヶ峰からさほど離れていないことが考えられる。テングコウモリについては、豊田市内ではまだ1例しか報告例がないが、発見時期（2011年2月18日）が冬眠期のダムの人工洞内（小原地区百月町の百月発電所導水路内）であるので、このコウモリもある程度の安定性を持って豊田市内に生息している、といわれてよいと考えられる。

上記の豊田市内に生息する哺乳類種（哺乳類相）を、愛知県産の絶滅種及び海生種をのぞく哺乳類相と比較すると、愛知県内では齧歯目14種、ウサギ目2種、霊長目1種、偶蹄目3種、食肉目11種、翼手目11種（近年確認されたオヒキコウモリを含む）、食虫目6種となっており、7目48種の生息が確認されている（子安・織田、2009；野呂、2014）。愛知県に生息が認められているにもかかわらず、豊田市内で確認されなかった翼手目を含む現生の陸生哺乳類種は、齧歯目ではシマリス（外来種）の1種、ウサギ目ではアナウサギ（外来種）の1種、霊長目・偶蹄目・食肉目にはなく（0種）、翼手目でチチブコウモリ・ノレンコウモリ・コテングコウモリ・オヒキコウモリの4種、食虫目で0種、総計で6種となった。これらのうち、シマリスは宮尾ほか（1984）によって、アナウサギは高田（2004）、チチブコウモリ・ノレンコウモリ・コテングコウモリは子安・織田（2009）、オヒキコウモリは野呂（2014）によって記述あるいは引用されたものである。シマリスとアナウサギはいずれもペットとして飼育されたものが逃亡した後、野生下で生存及び繁殖したものと考えら

れるが、愛知県下における定着に関する情報は現在のところ十分ではなく、その生息地が仮に残っていたとしても、ごく限られた範囲であると考えられ、捕食者の存在等を考慮すると、これらの生息が一時的なものであって、現在は絶滅している可能性は決して低くはないと考えられる。愛知県に生息がみられ、豊田市内では生息の認められなかった残りの4種はすべて翼手目のヒナコウモリ科に属するものであって、いずれも愛知県下での確認件数及び確認個体数もわずかであって、今後豊田市内での知見が深まるにつれて生息が確認される可能性も否定できない種である。こうしたことから、現生の陸生哺乳類相に関しては、豊田市内の生息種は翼手類に属する数種の未発見の種があるとはいうものの、愛知県下に生息する哺乳類の大部分をカバーしているといえることができるであろう。このことは、豊田市内の哺乳類相の多様性が比較的高いことを反映しているものと考えられる。

次に、各分類群で幾つかの種を取り上げて豊田市内における哺乳類相の特徴を考察してみる。現在、豊田市内に生息する哺乳類種は上記のように齧歯目13種、ウサギ目1種、霊長目1種、偶蹄目3種、食肉目11種、翼手目7種、食虫目6種となり、総計で7目42種である。

今回の現地調査では豊田市を挙母地区、高橋地区、上郷地区、高岡地区、猿投地区、保見地区、石野地区、松平地区、藤岡地区、小原地区、足助地区、下山地区、旭地区、稲武地区の14地区に区分している（豊田市、2014）。合併前の行政区域を中心に愛知県の哺乳類相の区分を行った宮尾ほか（1984）にしたがって合併後の現在の豊田市内における哺乳類相の地区割りをあてはめると、現豊田市はA：東三河地域、B：西三河地域の2地域に分けられるという。

これらは更に細分され、A1（東三河地域山間地帯）には稲武地区（旧稲武町）のみが含まれる。また、B1（西三河地域山間地帯）には藤岡地区（旧藤岡町）、小原地区（旧小原町）、足助地区（旧足助町）、下山地区（旧下山村）、旭地区（旧旭町）の5地区が含まれる。B2（西三河山間地帯）には松平地区（旧豊田市松平町）が含まれ、B3（西三河地域平坦地帯）にはB2を除いた旧豊田市域すなわち挙母地区（旧挙母市挙母町）、高橋地区（旧挙母市高橋村）、上郷地区（旧猿投町上郷村）、高岡地区（旧藤岡町高岡村）、猿投地区（石野地区と保見地区を除く旧豊田市猿投町）、保見地区（旧猿投町保見村）、石野地区（旧猿投町石野村）の7地区が含まれている。

齧歯目では、ネズミ科（ハタネズミ・スミスネズミ・ヒメネズミ・アカネズミ・カヤネズミ・ハツカネズミ・ドブネズミ・クマネズミ）、ヌートリア科（ヌートリア）、リス科（ニホンリス・ムササビ・モモンガ）、ヤマネ科（ヤマネ）の4科13種の生息が豊田市内で認められている。

ネズミ科では現地調査でハタネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミの3種の生息情報が確認できなかった。ネズミ科のうちでも、ハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミの3種は住家性の性質が強い種であり、今回の現地調査の性質上ネズミ類の捕獲が野外のワナによる捕獲調査が主体であったので生息記録が得られなかったものと考えられる。実際、宮尾ほか（1984）によれば、これら住家性のネズミ科3種はA1、B1、B2、B3のすべての地帯に分布することが示されている（宮尾ほか、1984の表5:318頁）。ハタネズミ、アカネズミ、カヤネズミは愛知県の「広域分布種」とされてA1、B1、B2、B3のすべての地帯に分布するとされるが（宮尾ほか、1984）、今回の現地調査ではアカネズミ（保見・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武の7地区で確認）を除くハタネズミの生息情報は全く得られず、カヤネズミの情報はごくわずか（高橋・松平・足助の3地区で確認）であった。これは（宮尾ほか、1984）以降現在までの約30年間における捕獲調査自体の少なさを考慮しても、豊田市内におけるハタネズミやカヤネズミという種の減退傾向を示唆している可能性が考えられる。カヤネズミは水田周囲の草地や湿地に見られるので、こうした環境の減少が関与しているとするなら、

今後の地域整備や開発等においてハタネズミやカヤネズミの生息に配慮することが必要になるであろう。

ヌートリア科のヌートリアは南米原産の移入種である。国の特定外来生物に指定され、世界及び日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている（子安・曾根，2012）。豊田市以東の地域は研究地域に含まれていないが、愛知県尾張地域における農業被害については曾根ほか（2006）によってまとめられている。愛知県環境部自然環境課（2012）によれば、豊田市の西半分（西三河北西部：挙母地区，高橋地区，高岡地区，猿投地区，保見地区，石野地区，藤岡地区，小原地区）が含まれており，東半分（西三河北東部：足助地区，下山地区，旭地区，稲武地区）は含まれていない。現地調査では猿投地区西広瀬町，保見地区八草町，足助地区則定町の矢作川及びその支流で生息が確認されており，矢作川の流域に広く拡大していることが示唆されている。

霊長目では，オナガザル科のニホンザル 1 種の生息が認められている。2009 年 8 月～2013 年 3 月に 7 地区（挙母・保見・藤岡・小原・足助・旭・稲武）でニホンザルの分布情報が確認された。宮尾ほか（1984）では「愛知県における分布局在種」とされており，西三河地域山間地帯（含まれる地区は藤岡・小原地区・足助・下山・旭）では「時に出没することあり」とされている。今回の調査はこの 30 年間にニホンザルの分布域が拡大しつつあることを示唆しており，その農産物被害等の観点から注意・対策が必要とされている種である。

偶蹄目では，ウシ科（カモシカ），シカ科（ニホンジカ），イノシシ科（イノシシ）の 3 科 3 種の生息が認められている。宮尾ほか（1984）によると，カモシカとニホンジカは「分布局在種」に，イノシシは「狭域分布種」とされていた。豊田市内各地区の現地調査において，カモシカは 8 地区（高橋・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）での分布が確認され，ニホンジカも 8 地区（猿投・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）で，イノシシは 11 地区（高橋・猿投・保見・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）で分布が確認されている。3 種とも明らかにこの 30 年間で分布を拡大させており，特にイノシシによる農産物被害が豊田市では極めて重大な問題となっている。

食肉目では，ネコ科（ノネコ），ジャコウネコ科（ハクビシン），イヌ科（ノイヌ・タヌキ・キツネ），クマ科（ツキノワグマ），イタチ科（テン・アナグマ・ニホンイタチ・シベリアイタチ），アライグマ科（アライグマ）の 6 科 11 種の生息が認められている。

ネコ科のノネコとイヌ科のノイヌはペットとしての飼い猫（イエネコ）と飼い犬（イヌ）が野生化したものであり，豊田市における繁殖生態がはっきりせず，その生息状態は一時的なものであるかもしれない。ただし，これらの種の野生化は世界中でおこっており，野生哺乳類の項目としては，常に考慮の対象とする必要がある。イヌ科のタヌキとキツネの分布は広く，現地調査ではタヌキが豊田市全 14 地区中 12 地区，キツネが全 14 地区中 10 地区での生息が確認されている。宮尾ほか（1984）は（恐らくは半島部と名古屋市を中心とした都市部での不在から）これらの種を「愛知県における狭域分布種」としているが，豊田市が愛知県の中央部に位置することを割り引いても，近年におけるタヌキとキツネの分布拡大の影響も受けているものと考えられる。

ジャコウネコ科のハクビシンは中国から東南アジア原産の移入種で，愛知県の条例公表種となっている（子安，2012b）。愛知県環境部自然環境課（2012）によれば，豊田市の西半分（西三河北西部：挙母地区，高橋地区，高岡地区，猿投地区，保見地区，石野地区，藤岡地区，小原地区，）と東半分（西三河北東部：足助地区，下山地区，旭地区，稲武地区），すなわち豊田市のすべてがその分布域に含まれているが，その分布図では分布詳細は不明である。今回の現地調査では豊田市の

全 14 地区のうちの 11 地区（挙母・高橋・保見・石野・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）の 36 町でハクビシンの分布が確認されている。ハクビシンの分布が確認されなかった地区は上郷地区、高岡地区、猿投地区の 3 地区のみである。文献的には高岡地区の堤本町、堤町、竹町での生息情報と猿投地区の青木町での生息情報が確認されているので（環境科学株式会社，2011），豊田市でハクビシンの生息がはっきりしないのは上郷地区のみといえる。近い将来，上郷地区を含む豊田市のすべての地区での確認がなされるであろう。果樹に対する農産物被害や民家の屋根裏への侵入による騒音や糞害が問題となっており（愛知県環境部自然環境課，2012），豊田市でも対応が必要である。

クマ科のツキノワグマは，現地調査や愛知県及び豊田市の「クマ情報」によって，2004 年 9 月～2014 年 2 月に 8 地区（保見・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）の 61 町で 133 件のツキノワグマの生息情報が確認されている。これは約 30 年前に，愛知県全域におけるツキノワグマが「厳密には生息しているとはいえない難く，周辺地域から，時々入りこんでくることがあるにすぎない状態」（宮尾ほか，1984）と比較しても膨大な量の生息情報といわざるを得ない。現在の豊田市及び愛知県内でのツキノワグマの生息状態は域内での個体群が「世代を越えて」維持されているとはいいたい状態である。ただし，個体としては豊田市内でも「越冬」を行っているのが確かな事例（2014 年 2 月 24 日，下山地区平瀬町平沢連地内における雪上の足跡の発見）もあり，今後，豊田市内における繁殖例やその生まれた子が更に繁殖に参加する可能性が増大している，という現状に注意する必要がある。

イタチ科では豊田市に 2 種のイタチ類，すなわちニホンイタチ (*Mustela itatsi*) と確実に同定されたものが 6 地区（保見・松平・藤岡・小原・足助・稲武）で，シベリアイタチ (*Mustela sibirica*) と確実に同定されたものが 5 地区（挙母・猿投・松平・藤岡・足助）で確認された。愛知県内でもこれら 2 種を区別した分布の情報は未だに少なく（例えば，宮尾ほか，1984；Sasaki et al. 2014），今後両種の差異を明らかにした上での分布記録の蓄積が必要である。

アライグマ科のアライグマは北アメリカ大陸原産の移入種で，国の特定外来生物及び日本の侵略的外来種ワースト 100 に選定されている（子安，2012a）。愛知県を 17 の区域に分けたときにすべての区域での生息が認められている（愛知県環境部自然環境課，2012）。今回の現地調査では豊田市の全 14 地区のうちの 8 地区（上郷・松平・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武）の 27 町でアライグマの分布が確認されている。これに文献調査（野呂，2009）による石野地区東広瀬町と重複する 2 地区（小原地区百月町，旭地区小渡町）を加えると，現地調査と文献調査の全体で 9 地区 29 町となり，アライグマの広範囲な分布域を示している。アライグマの問題点や対策はよく知られていることであり（例えば子安，2012a 等），豊田市でも対応が必要である。

翼手目では，キクガシラコウモリ科（キクガシラコウモリ・コキクガシラコウモリ），ヒナコウモリ科（ヤマコウモリ・アブラコウモリ・ヒナコウモリ・モモジロコウモリ・テングコウモリ）の 2 科 7 種の生息が認められている。これらの翼手目はアブラコウモリを除けば分布も限られ，また種の同定も一般の方からの情報が期待できない種である。アブラコウモリは市街地を中心に分布も広いと考えられるが，住家性のネズミ類と同様な調査上のかたよりがあり，現地調査の情報が少ない。

食虫目では，モグラ科（ヒミズ・ミズラモグラ・アズマモグラ・コウベモグラ），トガリ科（ジネズミ・カワネズミ）の 2 科 6 種の生息が認められている。ヒミズは山間部を中心とした 4 地区（高橋・小原・足助・稲武）で，コウベモグラは平野部を中心とした 7 地区（高橋・保見・小原・足助・

下山・旭・稲武)での分布が確認された。ミズラモグラ(文献上で2件:松平地区王滝町と足助地区大多賀町)とアズマモグラ(現地調査で2件)は同定も困難で、発見も偶然によることが多いが、希少な種であることも含めて、保全上の対応が必要とされている種である。ミズラモグラの文献上の記録については、大多賀町についての子安ほか(2001)と王滝町についての豊田市(1995)を参照されたい。ただし、後者については詳細が明らかでなく、必ずしも確実な生息情報とはいえないかもしれない。

## 5 謝辞

本調査の実施ならびに報告書を作成するにあたり、資料や捕獲個体の収集に多大なご協力を賜った方々のすべてのお名前を挙げることはできませんが、次の方々や機関には特にお世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

青山英生 内田臣一 梅村利幸 岡田歩夢 織田銃一 大内秀之 大熊千晶 大竹 勝(故人)  
大畑孝二 緒方清人 小鹿 亨 小鹿 理 川島賢治 川田奈穂子 木村修司 小池 彩 小池則満  
後藤美智子 杉浦綾子 鈴木勝己 佐竹義雄 杉山時雄 曾根啓子 高井 泰 西部めぐみ  
長谷川 伸岳 原田哲宏 前田茂雄 前畑真美 間野隆裕 松山 太 水野 マリ子 三津井 宏  
山下久子 山下美夏 山田昌幸 吉鶴靖則 渡部教行 中部電力 愛知県自然環境課

(子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝)

## 6 文献

- 愛知県環境部自然環境課 (2012) STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～. 愛知県環境部自然環境課. 225pp.
- 環境科学株式会社 (2011) 豊田市外来生物情報整備委託報告書. 豊田市環境政策課. 31pp.+資料編 22pp.
- 子安和弘 (2012a) アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758). STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～, 愛知県環境部自然環境課: 56.
- 子安和弘 (2012b) ハクビシン *Paguma larvata* (Smith, 1827). STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～, 愛知県環境部自然環境課: 57.
- 子安和弘・織田銑一 (2009) 哺乳類. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック あいち 2009 動物編, 愛知県環境調査センター (編): 63-91.
- 子安和弘・佐竹義雄 (2008) 豊田市自然観察の森で生存が確認されたヤマコウモリ (*Nyctalus aviator*) について. マンモ・ス特別号, 10: 15-18.
- 子安和弘・曾根啓子 (2012) ヌートリア *Myocastor coypus* (Molina, 1782). STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～, 愛知県環境部自然環境課: 54.
- 子安和弘・小林秀司・大竹 勝 (2001) 愛知県の食虫類と翼手類. マンモ・ス特別号, 3: 19-34.
- 子安和弘・水野マリ子・佐竹義雄 (2008) 愛知県で生息が確認された 3 例目のヤマコウモリ (*Nyctalus aviator*). マンモ・ス特別号, 10: 19-24.
- 真野 徹・杉山時雄 (2008) フクロウの巣箱から確認された動物の骨格. 西三河野鳥研究年報, 11: 1-6.
- 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一 (1984) 哺乳類. 愛知の動物, 佐藤正孝・安藤 尚 (編): 286-235.
- 日本野鳥の会・大畑孝二・川島賢治・大熊千晶・猪俣 寛・黒川マリア・青山英生・山下美夏・前畑真美・小池 彩・水野マリ子・木村秀司 (2014) 平成 25 年度 (2013 年度) 豊田市自然観察の森 年次報告書. (公財) 日本野鳥の会施設運営支援室 (編). 豊田市. 207pp.
- 野呂達哉 (2009) 矢作川河畔林における哺乳類の基礎調査報告. 矢作川研究, 13: 105-112.
- 野呂達哉 (2014) 愛知県名古屋市中におけるオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の初記録. なごやの生物多様性, 1: 65-69.
- 齊藤浩明・風間 健太郎・日野輝明 (2013) カワネズミ *Chimarrogale platycephala* の捕獲率に影響する環境要因. 哺乳類科学, 53: 117-121.
- Sasaki, H., Ohta, K., Aoi, T., Watanabe, S., Hosoda, T., Suzuki, H., Abe, M., Koyasu, K., Kobayashi, S. and Oda, S-i. (2014) Factors affecting the distribution of the Japanese weasel *Mustela itatsi* and the Siberian weasel *M. sibirica* in Japan. Mammal Study, 39: 133-139.
- 曾根啓子・子安和弘・小林秀司・田中 慎・織田銑一 (2006) 野生化ヌートリア (*Myocastor coypus*) による農業被害 ―愛知県を中心に―. 哺乳類科学, 46: 151-159.
- 高田靖司 (2004) 哺乳類. レッドデータブックなごや 2004 動物編 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物, 名古屋市動植物実態調査検討会 (監修): 23-42.
- 豊田市 (1995) 豊田市自然観察の森自然環境調査報告書. 豊田市自然保全課. 81pp+図版 1p.
- 豊田市 (2014) 豊田市全図 町別区域図. 豊田市.

## 7 索引

### 【あ行】

アカネズミ 338, 341, 362  
アズマモグラ 339, 358, 359, 364, 365  
アナウサギ 361  
アナグマ 339, 352, 363  
アブラコウモリ 339, 356, 364  
アライグマ 339, 354, 355, 363, 364  
イノシシ 338, 346, 363  
オヒキコウモリ 361

### 【か行】

カモシカ 338, 345, 363  
カヤネズミ 338, 341, 362, 363  
カワネズミ 339, 360, 364  
キクガシラコウモリ 339, 355, 364  
キツネ 339, 350, 363  
クマネズミ 338, 342, 362  
コウベモグラ 339, 358, 359, 360, 364  
コキクガシラコウモリ 339, 355, 364  
コテングコウモリ 361

### 【さ行】

ジネズミ 339, 360, 364  
シベリアイタチ 339, 353, 354, 363, 364  
シマリス 361  
スミスネズミ 338, 340, 362

### 【た行】

タヌキ 339, 349, 363  
チチブコウモリ 361  
ツキノワグマ 339, 350, 351, 361, 363, 364  
テン 339, 351, 363  
テングコウモリ 339, 357, 361, 364  
ドブネズミ 338, 342, 362

### 【な行】

ニホンイタチ 339, 352, 353, 363, 364  
ニホンザル 338, 345, 363  
ニホンジカ 338, 346, 363  
ニホンリス 338, 342, 362

ヌートリア 338, 342, 362, 363  
ノイヌ 339, 348, 349, 363  
ノウサギ 338, 344  
ノネコ 338, 347, 348, 363  
ノレンコウモリ 361

### 【は行】

ハクビシン 339, 348, 354, 363, 364  
ハツカネズミ 338, 341, 362  
ヒナコウモリ 339, 356, 364  
ヒミズ 339, 357, 358, 364  
ヒメネズミ 338, 340, 362

### 【ま行】

ミズラモグラ 339, 358, 364, 365  
ムササビ 338, 343, 362  
モモジロコウモリ 339, 356, 364  
モモンガ 338, 344, 362

### 【や行】

ヤマコウモリ 339, 356, 361, 364  
ヤマネ 338, 344, 362